

大分工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	資格英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		R02G510		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		一般科目		対象学年		5	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		「Spep by step prep for the TOEIC L and R test」、キクタンTOEIC800アルク出版、辞書					
担当教員		朝美 淑子					
到達目標							
(1) TOEICの問題形式に精通する (定期試験) (2) 語彙, 文法に慣れる (定期小テスト) (3) リスニング問題に慣れていく (定期試験) (4) その他、英語活動に関する新聞記事等を読み、全体的な英語の基礎力をつけていくこと。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		出題された問題のすべてを理解し 応用できるようになる		出題された問題の解説を理解できる		出題された問題の解説を理解できない	
評価項目2		決められた英作文に工夫を加え自己 表現できる		決められた英作文について分量内 容共に記述できる		決められた英作文について分量内 容共に記述できない	
評価項目3		リスニングを理解し、自ら使用し 、発展をはかる		リスニング内容を理解できる		リスニング内容を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (C2) JABEE 1(2)(f) JABEE 1(2)(g)							
教育方法等							
概要		この科目は主にTOEICを受験する学生を対象にする。しかし単にTOEICのスコアを伸ばすことを目指すのではなく、英語を聞く力・読む力・相手を理解する態度を総合的に伸す。さらに、時事英語等の新聞記事や読み物を通し、英語学習を生涯教育の一環として体得していくことを目的とする。					
授業の進め方・方法		総合評価＝定期試験(70%)＋単語・イディオムテスト(20%)＋課題(10%)。総合評価60点を合格とし、40点以上の学生に1度のみ再試を行う。					
注意点		日頃から英語に接し、資格試験に挑戦すること。単語イディオムを絶え間なく学び続けること。自ら発信する力を、日本語と同時に英語でもできるよう努めること。					
評価							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	授業の解説 オリエンテーション 単語練習 (CHAPTER4)			後期の授業の確認	
		2週	UNIT7 単語練習 (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		3週	UNIT7 単語練習 (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		4週	UNIT8 単語テスト (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		5週	UNIT8 単語練習 (CHAPTER5) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		6週	UNIT9 単語練習 (CHAPTER5) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		7週	UNIT9 単語練習 (CHAPTER5) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
	4thQ	8週	UNIT10 単語テスト (CHAPTER5) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		9週	後期中間考査				
		10週	後期中間考査解説				
		11週	UNIT11 単語練習 (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		12週	UNIT12 単語練習 (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		13週	UNIT13 単語練習 (CHAPTER4) イディオムの学習			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		14週	1年間の復習 単語練習 (CHAPTER4)			UNITについての理解 単語の理解・発音	
		15週	後期期末考査				
16週	後期期末考査解説						

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3		
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3		
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3		
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3		
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3		
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3		
		公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3			
			自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3			
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3			
評価割合							
	試験	小テスト	発表等	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0